

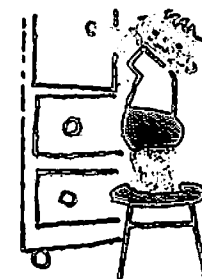
子どもの事故

転落・やけど・誤飲がTOP3！！

～事故を予防するのは大人の役目です～

転落

赤ちゃんをベビーベッドやベビーサークルに入れていないときは、たとえ一瞬でも目を離さないようにしましょう。
おむつを替えているとき、服を着せているとき、お風呂に入れているときには、けっして赤ちゃんのからだから手を離さないようにしましょう。



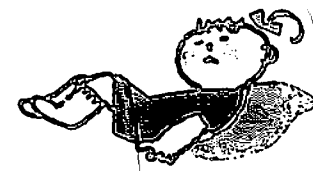
😊 子どもにはつねに見守ってくれる人が必要です。

決して子どもをひとりだけで置いておかないようにしましょう 😊

まずは、落ち着いて経過をみましょう。まわりの大人がパニックにならないように。
すぐ、ワーツと泣いたら、まずはひと安心です。
眠っているのか意識がないのか気をつけて下さい。いつもかかないイビキが目立つときは要注意です。
2・3日間は子どもの様子をよく観察して下さい。

こんなときは、病院へ！！！！

- ぼんやりしたり、意識状態がおかしい 顔色が悪い
- けいれんを起こした
- 頭痛がひどい
- 吐き気がだんだん強くなる
- 鼻血は止まらない、耳から出血している
- 手足が動かない、しびれる
- 「ものが見えにくい」と子どもが言うとき



やけど

やけどの重症度は範囲や深さ、やけどをした場所で決まります。

応急処置として、水道水などの流水で30分以上冷やして、早めに医療機関を受診してください。

日本人の子どもでは、熱い飲食物(みそ汁やカップ麺など)がかかる、炊飯器や加湿器の蒸気に触る、花火が当たるなどによるやけどが多いようです。予測と予防が大切です。

😊 わが子が普段どんな行動をしているのか、いつも注意して把握しておくようにしましょう 😊

できるだけ早く水をかけて冷やしてください。服の上からやけどをした場合も服を脱がせる前に水をかけて冷やしましょう。

水ぶくれができた場合には、直接水をかけると水ぶくれが破れてしまうことがあるので、洗面器に水道水を流しっぱなしにして、やけどしたところを冷しましょう。水ぶくれは冷やした後も破らないように気をつけて、病院で処置を受けてください。

※味噌、バター、アロエ軟膏、チンク油を塗ってはいけません。禁忌手です！！



たはらクリニック

TEL083-923-3415

誤飲

診察の参考のために、誤飲したものと同じものを医療機関に持参しましょう。症状や異物のある場所によって、取り出すか排便されるのを待つかを判断します。

異物誤飲は、生後半年以降、行動範囲が広がる時期に子どもの身近にあるもので起こります。幼児が口を開けたときの最大の口径 39mmより小さいものは手の届かない場所に片付けましょう。



すぐに病院へ

中毒の危険が高く、緊急に対処する必要があります。応急処置をして病院へ。

塩素系漂白剤、排水パイプ用洗浄剤、カビ取り剤、酸性・アルカリ性の洗剤(トイレ用洗剤、浴室用洗剤、換気扇・レンジ用洗剤 など)		少量でも危険です。吐かせないで、すぐに病院へ。
床・家具用ワックス剤		少量でも危険です。何も飲ませず、吐かせないで、すぐに病院へ。ただし、水溶性のものなら危険度は低いです。
ガソリン、灯油、潤滑油		少量でも危険です。何も飲ませず、吐かせないで、すぐに病院へ。
シンナー、ベンジン		少量でも危険です。何も飲ませず、吐かせないで、すぐに病院へ。
医薬品		薬品のタイプにもよりますが、飲んだ量を記録し、すぐに吐かせて病院へ。
マニキュア、マニキュア除光液		ひと口飲んでも危険です。何も飲ませず、吐かせないで、すぐに病院へ。
衣類用防虫剤(しょうのう)		牛乳は吸収を速めるので飲ませないこと。少量でも吐かせないで、すぐに病院へ。
衣類用防虫剤(ペリタリン、パラシカロールベンゼン)		牛乳は吸収を速めるので飲ませないこと。少量でも、すぐに吐かせて病院へ。
家庭用殺虫剤		少量でも危険です。何も飲ませず、吐かせないで、すぐに病院へ。
殺鼠剤、ホウ酸だんご		少量でも危険です。すぐに吐かせてから病院へ。
ボタン電池		飲み込んでいれば、何も飲ませず、吐かせないで、すぐに病院へ。



飲んでいたら病院へ

量や種類によっては中毒が心配されるので、様子を見て対処すること。吐かせるものも、無理に吐かせずに、病院へ連れていきましょう。

酸性・アルカリ性以外の洗剤(台所用洗剤、浴室用洗剤、トイレ用洗剤、他宅・車庫用洗剤、ガラス用洗剤、クレンジャー、洗剤用洗剤)、酸素系漂白剤、柔軟仕上げ剤		なめた程度なら様子を見ますが、飲んでいたら、無理に吐かせないで、すぐに病院へ。
シャンプー、ボディシャンプー		なめた程度なら、吐かせないで様子を見ますが、飲んでいたら、すぐに病院へ。
リンス、ヘアトニック、化粧水、ローション、香水、オーデオロン		なめた程度なら様子を見ますが、飲んでいたら、無理に吐かせないで病院へ。
油性塗料、合成樹脂塗料		なめた程度なら、何も飲ませず、吐かせないで様子を見ます。様子がおかしい場合は、すぐに病院へ。
芳香剤、芳香消臭剤、花火		少量なら様子を見ますが、多量に飲んだ場合は、無理に吐かせないで病院へ。
液体蚊取り		何も飲ませず、吐かせず、少量の場合は様子を見ます。多量の場合は、すぐに病院へ。
アルコール、インスタントコーヒー粉、しょうゆ		水をたくさん飲ませて様子を見ます。多量に飲んだ場合は、無理に吐かせないで病院へ。
インク、墨汁		水をたくさん飲ませて様子を見ますが、インクで20ml以上、墨汁で10ml以上飲んだ場合は、無理に吐かせず病院へ。



ほとんど心配なし

中毒の危険はほとんどありません。かなりの量を飲んだり、かじったりして様子がおかしいようなら、受診しましょう。

石けん		中毒の心配はほとんどありませんが、10g以上食べて様子がおかしいときは、無理に吐かせないで病院へ。
歯みがき剤		中毒の心配はほとんどありませんが、フッ素を含む場合は、吐かせて様子を見ます。
マッチ、ろうそく、乾燥材(シリカゲル)、冷蔵 庫脱臭剤、線香、蚊取りマット、コンタクト レンズ用品、体温計の水銀		中毒の心配はほとんどありません。
ファンデーション、口紅、クリーム、乳液、 ヘアムース、ボマード、ベビーオイル		中毒の心配はほとんどありません。
クレヨン、水性絵の具、鉛筆、消しゴム、粘土		乳幼児専用のものでなくても、中毒の心配はほとんどありません。

タバコの誤飲



家庭内での誤飲事故でもっとも多いのがタバコ。タバコ1本に含まれるニコチンの量は、乳児2人分の致死量にあたるとか。1/4本程度でも危険です。赤ちゃんや子どものいる家庭では禁煙を徹底して、タバコも灰皿も子どもの手の届かない場所に保管しましょう。空き缶を灰皿代わりに使うのも厳禁です。万が一、子どもがタバコを口にしていたら、すぐに吐き出させて病院へ。気づいたときに子どもがぐったりしていたら、救急車を呼びましょう。

タバコを食べた場合

飲み込んだ量がわからないときは、まずは口の中をのぞき、残っているタバコがあれば指を使ってかき出します。次に、何も飲ませないで、子どもの上体を前に傾けて、指を入れて吐かせます。このとき、水も牛乳も飲ませてはいけません。ニコチンの吸収を速めてしまうだけなので、何も飲ませずに、指をかまれないように注意して吐かせるのです。ただし、無理に吐かせることはさげます。

中毒症状があらわれるのは30分～4時間以内といわれていますが、飲んだ量が少なくても、ほとんどを吐き出させても、応急処置がすんだあとは念のために受診します。1日たっても変化がなければ、心配ないでしょう。

タバコの溶液を飲んだ場合

空になった缶を灰皿代わりに使い、わずかに残っていた液体にニコチンが溶け出して、それを赤ちゃんが飲んでしまう事故も少なくありません。これは毒物を飲んだも同然の行為で、中毒症状は15分以内に出ます。わずかな量でも、すぐに吐かせて受診します。このとき、水も牛乳も飲ませてはいけません。また、顔色が悪く、呼吸困難やけいれんなどを起こしていたら、ただちに救急車を呼びましょう。

どうしてもわからないときは 中毒110番へ!

誤飲事故では、飲んだものや量によって、処置が違います。どうするか迷ったら、中毒110番、かかりつけ医などに電話をして指示を受けるのが確実です。

つくば中毒110番

☎029-852-9999

365日、午前9時～夜9時対応

大阪中毒110番

☎072-727-2499

365日、24時間対応

タバコ専用電話

☎072-726-9922

365日、24時間対応、
テープによる情報提供

(財)日本中毒情報センター

注：いずれも相談は無料ですが、通話料は相談者負担です。相談内容はタバコや家庭用品などの化学物質、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒についてであり、食中毒・慢性中毒・小石やビー玉など異物誤飲に関する質問は受けつけていないので注意しましょう。

